

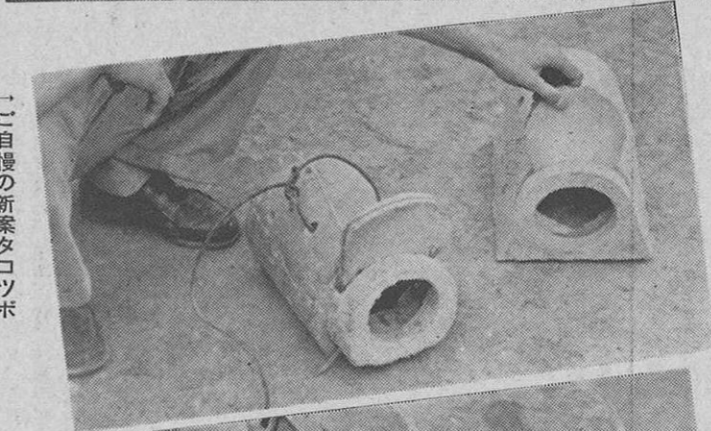
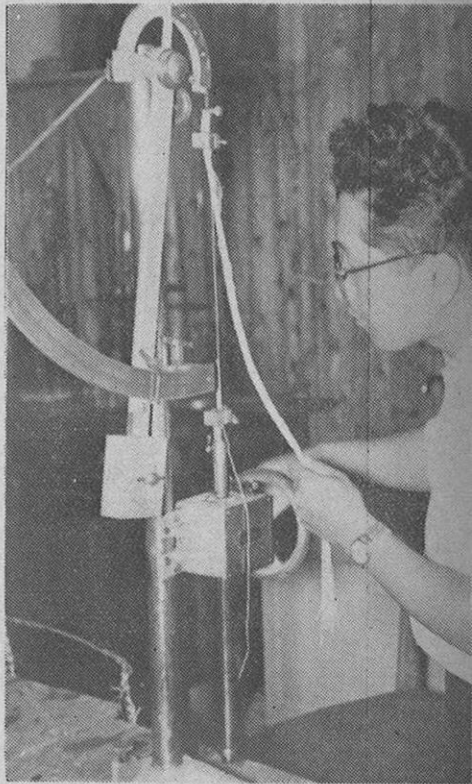
# 熊本県 水産試験場

〈施設めぐりNo3〉

←わかめの人工養殖試験は最も力を入れているもの。毎日わかめの胞子をのぞいている。



!漁網糸の強さもこの装置でやれば簡単にできる



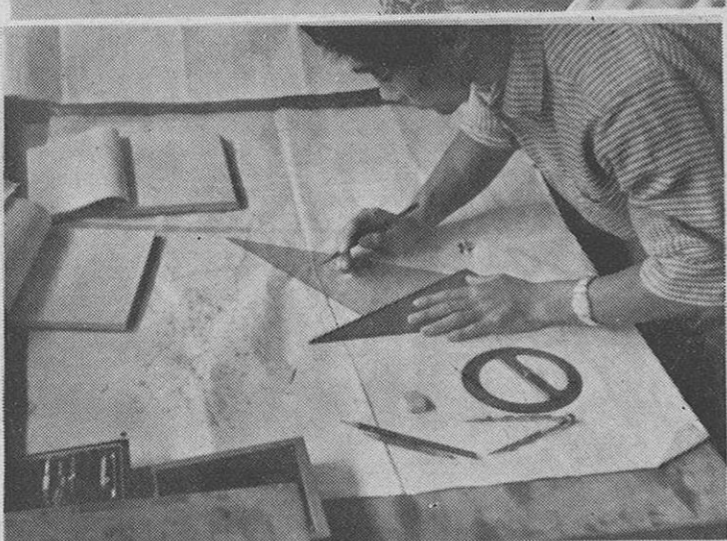
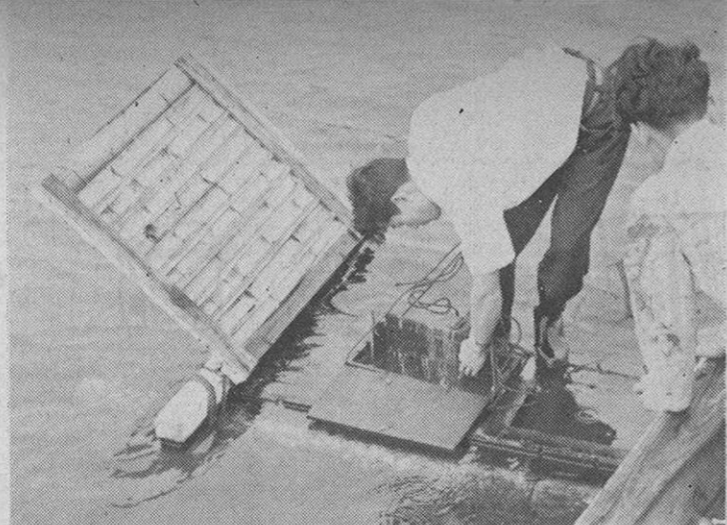
→ご自慢の新案タコツボ



→ドラムカン魚礁



→試験用の真珠母貝の手入れ。母貝は金網のカゴに入れ、イカダの下につりさげている。右上方のビニール袋には培養中のわかめの胞子が入れている。



県の水産発展のため、黙々と研究に、指導に地味な仕事を続けている水産試験場は、天草郡苓北町富岡にある。所長以下十五名の小世帯で、老大な研究テーマや指導面の仕事を抱えているが、着々と実績を挙げているのは頼もしい限り。そこで一寸試験場の仕事をのぞいてしよう。

★わかめ人工養殖の研究 わかめは現在県下で三〇万貫(約一千万円)とれ、零細漁民の大きな財源になっているので、この人工養殖が成功すればその効果は大したもの。そこで三〇年から基本的試験を行ってきたが、昨年一応の成功をみたので、今年度から本格的な試験を行つていく。四月に種つけをしたが、十月十一月頃には幼体が出てくる。夏には外敵が多く、これを如何に防ぐかが大きな問題。

★人工漁礁の改良研究 現在魚礁として利用されているコンクリートブロックも良いが、廃品となつたドラム罐に手を加えて

魚礁や魚巢としようというもの。これを実際使用して成績がよかつたらどしどし普及させると張切つている。

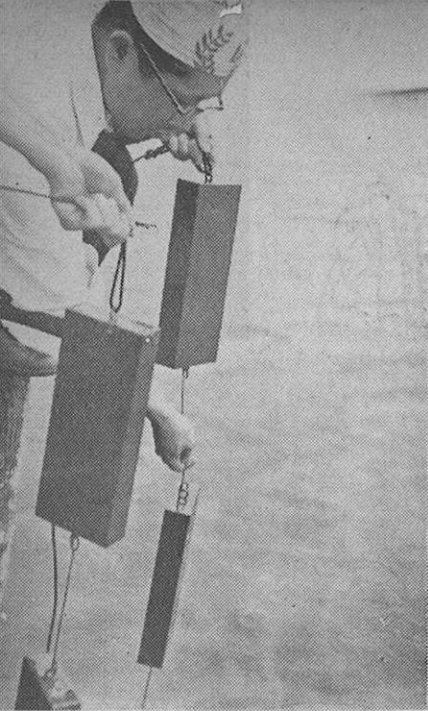
★漁場測量と漁場図作成 これまでは殆んど経験とカンに頼つていたので、漁場の正確な海図がなかつた。そこで不明であつた天草全沿岸を、音響測深などの方法によつて海底調査を行い、漁場図を作製中であり、漁業界から大きな期待を寄せられている。

★真珠の研究 天草における真珠養殖は逐次活潑になつてきたが、母貝の地元供給がまだできず、他からとりよせているのが実情。このため、母貝の人工採苗と養成の研究をすゝと共に、業者が苦心する母貝卵抜きの方法を研究している。

このほか新聞にも紹介された新案タコツボの創作、カキ養殖の指導、磯建網の漁法改良研究、或は船底塗料や漁網、網の防腐剤の比較試験など、やつている仕事は数限りない。

■だが、これらの試験研究も、予算が少いので、思うように出来ないのが実情。現地指導も出来ないらしい。「私達漁業者は、もつと現地に來てもらつて指導を受けたいのです……」とは、たまたまカキの養殖の事で訪れていたH漁協の人の言葉である。

■ともあれ、この試験場では今日も亦汐風に吹かれながらプランクトン採取し、真珠貝を開け、顕微鏡をのぞいているであろう——県水産業の陰の力として——



右 上 人工増殖用わかめ胞子の培養イカダ

右 下 漁場測定の結果を製図中

左 上 船底塗料を塗つたブロックを海中に長期間漬けてテストする

左 下 手前は中層海水温度の測定器右はプランクトン採取用の袋